

小学校訪問 ～やさしい心と強い心を持とう～

私が直接市内の小学校を訪問して、子どもたちが元気に遊んだり勉強したりしている姿を見て回る活動を、2年前から行っています。年10校程度ですが、市長自身が学校現場に足を運ぶことで、教育現場の実情を肌で感じ、今後の教育政策に生かそうというものです。

この事業を始めるきっかけとなったのは、セント・ピーターズバーグ市を訪問した時に受けた「高松市では市長が学校に行って子どもたちと直接触れ合う機会を持っているか。」というリック・ベーカー市長からの問いかけでした。ベーカー市長は、3年間かけて市内すべての小学校を回ったとのことでした。その目的を尋ねたところ、「子どもたちが市長本人の話を直接聞き、触れ合うことによって、セント・ピーターズバーグ市に生まれ育ったことを誇りに思い、人生の岐路に立ったときに思い出し、帰郷するきっかけになるかもしれないから。」とのことでした。それは良い試みだと、帰国後早速実践に移すこととしたものです。

小学校訪問では、まず校内放送で全校児童に挨拶をかねて話しかけています。具体的な例を引きながら「やさしさ」と「強さ」について話をし、「やさしい心」と「強い心」を持とうと語りかけています。併せて、毎日続けてほしいこととして、「挨拶をしよう」、「朝ご飯をちゃんと食べよう」、「本をよく読もう」という3つのことをお願いしています。その後、授業の様子をのぞいて回ったり、一緒になって英語の挨拶ゲームをしたり、体育館で「じゃんけん汽車ポッポ」に興じたりと、それぞれの小学校の活動内容に沿って体験します。子どもたちと一緒に活動することで、私自身がいっぱいエネルギーをもらっています。また、高学年の子どもと質疑応答などでやりとりをすると、子どもの素直な疑問や意見から、まちづくりについてのヒントをもらうこともあります。

子どもたちにはこれからも、相手の気持ちを思いやり行動することができる「やさしい心」と、「やればできる。あきらめずに最後までやり抜こう。」という「強い心」をしっかりと持ち、生きる力を養いながら成長して行ってほしいと願っています。